

市の重点課題	学校の重点項目	自己評価	達成状況	学校関係者評価委員会から	改善の方向
希望あふれる未来を自ら拓く力を育むための教育課程の編成	「チーム学校」として、保護者や地域の願いを踏まえ、職員が学び合って指導力を高め、児童自ら学びを深め合い、デジタルとリアルを効果的に活用した授業改善を工夫し、「できそう、わかった、おもしろい」と実感できる授業実践に努める。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICTを効果的に活用しながら理解が深まるように授業の工夫ができるように務めている。</li> <li>児童が自分の考えをもち、仲間と学びを深めるために、タブレット機能を積極的に利用する姿が増えてきた。</li> <li>英語教育においては、ALTの活用を充実させ、1年生から6年生まで英語が楽しいと思える授業づくりに努めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教室の掲示物を見ても「かしこく・やさしく・たくましく」を学校全体で実践されていると感じた。</li> <li>人の話をしっかり聞き、いじめを見逃さない、仲間と助け合い活動するなどの言葉が児童の作品や振り返りカードの中にも見られ、芥見の子の将来の姿をまぶしく感じた。</li> <li>ICTの活用も工夫され、子ども達も活動の内容によって使い分けしている様子がわかる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「授業が楽しくわかりやすい」という児童アンケートでは88%であった。子ども自ら課題をつみ分け、解決していくことができる授業をめざし、「できた」「わかった」といえる授業改善をすすめていく。</li> <li>体験的な学習の充実を図り、実感を伴う学びをこれからも継続していく。</li> <li>ALTと協力しながら教材研究をし、英語を楽しく学べる授業づくりに務める。</li> </ul>
コミュニティ・スクールの機能の充実と岐阜市型小中一貫教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域と学校の協働的な指導体制づくりから体験的な学習の工夫や、地域人材の活用により芥見のよさ再発見やキャリア教育につながる学習の充実を図る。</li> <li>幼保との連携や中学校区3校で連携を図り、小中一貫での活動の充実に努める。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の方に支援サポーターとして芥見地区を知る学習に参加していただいたり、体験学習(鮎の放流・稲作・豆腐作り・狂俳)をする機会を設けたりすることで、地域のよさを再認識したり受け継がれる文化を知ったりすることで、未来について考える学習を進めている。</li> <li>小中では、児童の地域行事への参加(ちびっこボランティア)や、中学3年生と小学1年生が授業するなどして交流している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域コミュニティの活性化のため、子ども・保護者が継続的に参加できるような働きかけをしていくとよい。</li> <li>芥見について、町探検や歴史を地域の人から学ぶ機会があり、子ども達が地域に目を向け、知ることは良いことだと感じる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体験的な学習が少しずつ増えてきているので、実感を伴う学びをこれからも継続していく。</li> <li>地域の方の協力を得ながら人材の確保し、人から学ぶことでキャリア教育につなげていく。</li> <li>幼保小の連携協議会、小学校と中学校の教師間の交流などの場を増やす。</li> </ul>
あたたかさや働きがいにあふれる学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>同僚性の維持・向上を大切に、良質な情報交換と異なる視点からの交流を活性化することで教職員のコミュニケーション力を高め、子ども一人ひとりの思いに寄り添いあたたかい学校づくりに努める。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ありがとう」「助かりました」という言葉が自然に行きかう職員室をめざし、若手もベテランも対等に意見が言える関係作りができています。</li> <li>教員一人一人の得意分野や専門性を生かし、「失敗しても次に生かせる」挑戦を肯定しながら日々実践ができています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>どの学級も積極的に授業に参加している子が大半であるが、その中で一人、二人と集中できていない子がいたのが心配であった。</li> <li>価値観も多様化する社会の中で、子どもだけでなく保護者との関係性を築くことにも日頃の先生方にはいつも感謝である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者アンケートの結果を昨年度と比較すると「学校は、豊かな心・思いやりの心をもった子どもを育てようとしている」では96%、と増えたものの「家庭や地域と連携して子どもの指導を行っている」では94.2%と減っている。今後も、子ども一人ひとりの思いや保護者の願いに寄り添っていく。</li> </ul>
子どもたちが安心して学べる学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分のよさや仲間の考えのよさから学び合う学級、相手の立場や気持ちを考えて行動し他学年の仲間とも心の通じ合える異学年交流活動、児童自ら創り出す「4つのじまん」の取り組みに努め、安心・安全な学校生活の基盤づくりと家庭や地域と子どもを支えるネットワークの充実を図る。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>全職員がいつでも話せる関係づくりに努め、相談しやすい雰囲気づくりをしている。一人一人を大切に、結果だけでなく努力や過程を認める声掛けを心掛けています。</li> <li>児童の思いに寄り添うことを大切にしつつ、アンケートやここタンの活用をしながら、早期に悩みに対応できるよう努めている。</li> <li>ミニアゴラを不登校傾向の児童が使用できるよう教室づくりをしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人権教育がしっかりとされていることや教職員の手作り教材などから努力が感じられ、安心して学べる環境がつけられていると思う。</li> <li>かがやきみつけ、あいさつ運動、いじめ0宣言等子ども達が主体的に考え行動する姿が印象的であった。</li> <li>子どもの抱える悩みや課題は複雑になっているので「寄り添う」ことがより大事になってくると感じる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの様子などから気になったことなどを日頃から職員間で情報を常に交流し、いじめの未然防止に努める。</li> <li>子ども達が自分らしく学び成長できるように、子どもの思いを受け止め話ができる関係づくりを大切にしたり、居場所を確保できるよう教室の活用を工夫したりして全職員で対応できるようにする。</li> </ul>
災害、事故に対する安全性の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>「命を守る訓練」「地域防災訓練への参加」で学年に応じた防災教育、登下校及び校内の安全教育を適切に進める。</li> <li>生命の大切さを日常生活の中で意識できるように働きかけ、ここタン、アンケート、あのねポスト等からの情報収集、全職員による情報交流、教育相談等の素早い対応でいじめ防止に努める。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な場合を想定し「命を守る訓練」を実施したり、「防災教育」を意識してPTA主催の体験活動を実施したりして保護者と共に安全教育について考えた。</li> <li>児童の悩みや不安に対し早期対応を常に心がけ、児童の思いに寄り添って話を聞いたり、ここタンやアンケートなどの活用や情報交流をしたりすることにより全職員での対応に努めている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>防災訓練を地域でも実施しているが、親子で参加してもらっている。</li> <li>学校でも授業で学んだり、PTAでもテーマにされていたりして、地域の一員としての意識が少しずつもてるようになってきているのではないかと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日頃から地域、保護者と協力しながら生命・身体の安全の確保を最優先にしていこう。どのように連絡をするのかも含めて、「命を守る訓練」の内容を見直していく。</li> <li>事案に対しては、事実確認を徹底し、情報の速やかな報告・共有・学校全体で対応する組織づくりをし、再発防止に努める。</li> </ul>
教育環境と学校財務環境の整備及び効果的な活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>効果的な教育を目指して、月一回の安全点検のほかに、日頃の点検の充実を図り、設備・備品等の再利用や修繕を進めて教育環境を整備する。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>限られた予算を有効に活用するため、教育的効果の高い分野や経年劣化等が進み修繕が必要な箇所が増えてきている施設など児童が安全に過ごせる環境づくりのために配分した。安全を確保するためにも、日頃の点検を実施し教育環境を整備している。</li> <li>児童の学習活動や特別活動など創意工夫のある活動に必要な物を準備し、児童が主体的かつ持続的に活動できる環境づくりに努めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子ども達の学びの足跡が、新聞や作品として掲示してあることで、互いのよいところを発見し、認め合えることにつながっているように感じた。</li> <li>学校も修繕が必要な場所が少しずつ増えてきていると聞いたので、安全に子ども達が過ごせるように対応していったほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童が安全に過ごせる環境づくりのために、限られた予算を有効に活用する用務める。</li> <li>安全を確保するためにも、日頃の点検を実施し教育環境を整備する。</li> <li>児童の創意工夫のある活動に必要な物を準備し、児童が主体的かつ持続的に活動できる環境づくりに努める。そのために、見通しをもった計画をし、必要な教材等を整えられるよう準備をしていく。</li> </ul>